

土倉¹・堀口・村瀬・Halley 法(拡張 Halley 法)とその収束 II
(不等式の場合, 初等関数の収束比較)

Tsuchikura¹・Horiguchi・Murase・Halley's method(Expansion of Halley's Method) and the conditions of convergence II (In the case of inequality, convergence comparisons of elementary functions)

堀口 俊二²
Shunji Horiguchi

Abstract : §1 は関数 $y=f(x)$ の独立変数 x の $x^q=t$ による変数変換した関数 $y=g(t)$ を与える. §2 は Halley 法とその拡張の土倉・堀口・村瀬・Halley 法(拡張 Halley 法)を与える. §3 は土倉・堀口・村瀬・Halley 法の収束比較式を与える. §4 は初等関数の Halley 法と土倉・堀口・村瀬・Halley 法の収束比較式を与える.

1. 関数 $y=f(x)$ の $x^q=t$ による関数の定義

定義 1.1. 実変数 x の関数 $y=f(x)$ を $x=t^{1/q}$ ($q \neq 0$) により変数変換した関数を $y=g(t)$ とする. すなわち

$$g(t) := f(t^{1/q}) = f(x)$$

この関数は $g(x^q)=f(x)$ となるから, $y=f(x)$ を高さは変えないで x 軸方向に $x^q=t$ だけ伸縮したグラフとなる.

定理 1.2. 曲線 $y=g(t)$ は

$$g''(t) = \frac{x f''(x) + (1-q) f'(x)}{q^2 x^{2q-1}} > 0 (< 0)$$

となる区間なら, そのグラフは下に凸(上に凸)となる.

定理 1.3. $y=f(x)$ の曲率 $\mu(x) = \frac{f''(x)}{(1+f'(x)^2)^{3/2}}$ は

$y=g(t)$ の曲率

$$\mu_q(t) = \frac{g''(t)}{(1+g'(t)^2)^{3/2}} = \frac{x f''(x) + (1-q) f'(x)}{(q x^{q-1})^2 \left(1 + \left(\frac{f'(x)}{q x^{q-1}} \right)^2 \right)^{3/2}}$$

に移る. 特に $\mu_1(x) = \mu(x)$ となる.

2. Halley 法と土倉・堀口・村瀬・Halley 法 (THMH 法)

定義 2.1. 実変数 x の方程式 $f(x)=0$ の解(根) α を近似する次の漸化式を Halley's method という.

$$x_{n+1} = x_n - \frac{f(x_n)}{f'(x_n) - \frac{1}{2} \frac{f(x_n) f''(x_n)}{f'(x_n)}}$$

Halley 法を拡張する. $y=g(t)$ に Halley 法を行い, それを $f(x_n)$ で表すと次の x_{n+1} の q 乗の漸化式を得る.

定理 2.2

$$x_{n+1}^q = \frac{x_n^q - q x_n^{q-1} \frac{f(x_n)}{f'(x_n) - \frac{1}{2} \frac{f(x_n) \left(\frac{1}{q x_n^{q-1}} f''(x_n) + (1-q) \frac{1}{x_n} f'(x_n) \right)}{f'(x_n)}}{f'(x_n) - \frac{1}{2} \frac{f(x_n) \left(\frac{1}{q x_n^{q-1}} f''(x_n) + (1-q) \frac{1}{x_n} f'(x_n) \right)}{f'(x_n)}}$$

定義 2.3. この漸化式を土倉・堀口・村瀬・Halley 法 (THMH 法) あるいは拡張 Halley 法という. 特に $q=1$ のとき Halley 法になる.

THMH 法の計算は次式で行う.

$$x_{n+1} = \left[\frac{x_n^q - q x_n^{q-1} \frac{f(x_n)}{f'(x_n) - \frac{1}{2} \frac{f(x_n) \left(\frac{1}{q x_n^{q-1}} f''(x_n) + (1-q) \frac{1}{x_n} f'(x_n) \right)}{f'(x_n)}}{f'(x_n) - \frac{1}{2} \frac{f(x_n) \left(\frac{1}{q x_n^{q-1}} f''(x_n) + (1-q) \frac{1}{x_n} f'(x_n) \right)}{f'(x_n)}} \right]^{1/q}$$

3. 土倉・堀口・村瀬・Halley 法(THMH 法)の収束比較条件式

定理 3.1. Halley 法は, α が単根で, x_n が α の近傍のとき, 次の 3 次収束の近似をする.

$$x_{n+1} - \alpha \doteq \frac{(1/4) f''(\alpha)^2 - (1/6) f'(\alpha) f'''(\alpha)}{f'(\alpha)^2} (x_n - \alpha)^3$$

α が $m(\geq 2)$ 重根のとき, 次の 1 次収束をする.

$$x_{n+1} - \alpha \doteq \left(1 - \frac{2}{m+1} \right) (x_n - \alpha)$$

定理 3.2. 数列 $\{x_n\}$ において $\lim_{n \rightarrow \infty} x_n = \alpha$ とする. q, r を 0 でない任意の実数定数とする. このとき α に十分近い x_n に対して次式を得る.

$$x_n^q - \alpha^q \doteq \frac{q}{r} \alpha^{q-r} (x_n^r - \alpha^r)$$

この定理より実数 q に関して, 次の定理が証明できる.

定理 3.3. THMH 法は, α が単根で, x_n が α の近傍のとき, 実数定数 $q(\neq 0)$ に対して次の 3 次収束の近似をする.

1 東北大学名誉教授 土倉保 2 新潟産業大学

$$x_{n+1} - \alpha \doteq \frac{\left(\frac{(q-1)^2}{4\alpha^2} f'(\alpha)^2 - \frac{(q-1)f'(\alpha)f''(\alpha)}{\alpha} + \frac{1}{4} f''(\alpha)^2 \right) - \frac{1}{6} f'(\alpha)(f'''(\alpha) + (2q-1)(q-1)f'(\alpha))}{f'(\alpha)^2} (x_n - \alpha)^3$$

α が $m(\geq 2)$ 重根のとき, 次の 1 次収束をする.

$$x_{n+1} - \alpha \doteq (1 - 2/(m+1))(x_n - \alpha)$$

定理 3.4. α を $f(x)=0$ の単根とする. THMH 法が Halley 法より収束が速いか等しいための必要十分条件は, 実数 q が不等式

$$\left| 1 + \frac{\left(\frac{(q-1)^2}{4\alpha^2} - \frac{1}{6}(2q-1)(q-1) \right) f'(\alpha)^2 - \frac{(q-1)f'(\alpha)f''(\alpha)}{\alpha}}{\frac{1}{4} f''(\alpha)^2 - \frac{1}{6} f'(\alpha)f'''(\alpha)} \right| \leq 1$$

すなわち

$$0 \leq \frac{(q-1)f'(\alpha)^2 \left[\left(\frac{1}{3} - \frac{1}{4\alpha^2} \right) q - \frac{1}{6} + \frac{1}{4\alpha^2} + \frac{f''(\alpha)}{\alpha f'(\alpha)} \right]}{\frac{1}{4} f''(\alpha)^2 - \frac{1}{6} f'(\alpha)f'''(\alpha)} \leq 2$$

を満たすことである.

系 3.5. (1) $f''(\alpha) \neq 0, f'''(\alpha) = 0$ のとき, 定理 3.4 の不等式は次式となる.

$$0 \leq \frac{(q-1)f'(\alpha)^2 \left[\left(\frac{4}{3} - \frac{1}{\alpha^2} \right) q - \frac{2}{3} + \frac{1}{\alpha^2} + \frac{4f''(\alpha)}{\alpha f'(\alpha)} \right]}{f''(\alpha)^2} \leq 2$$

(2) $f''(\alpha) = 0, f'''(\alpha) \neq 0$ のとき, 定理 3.4 の不等式は次式となる.

$$0 \leq \frac{(1-q)f'(\alpha) \left[\left(2 - \frac{3}{2\alpha^2} \right) q - 1 + \frac{3}{2\alpha^2} \right]}{f'''(\alpha)} \leq 2$$

曲線の凹凸を表す $g''(t)$ や曲率 $\mu_q(x^q)$ を用いて定理 3.4 の式を変形できる. しかし, これは複雑なので別稿で行う.

方程式 $f(x)=0$ を $h(x)=0$ に式変形する. この $h(x)$ の r 乗の THMH 法は

$$x_{n+1}^r = x_n^r - \frac{q x_n^{r-1} \frac{h(x_n)}{h'(x_n) - \frac{1}{2} \frac{h(x_n)}{h'(x_n)} \left(\frac{1}{q x_n^{r-1}} h''(x_n) + (1-r) \frac{1}{x_n} h'(x_n) \right)}}{h'(x_n) - \frac{1}{2} \frac{h(x_n)}{h'(x_n)} \left(\frac{1}{q x_n^{r-1}} h''(x_n) + (1-r) \frac{1}{x_n} h'(x_n) \right)}$$

であり, α が単根のとき次の 3 次収束をする.

$$x_{n+1} - \alpha \doteq \frac{\left[\frac{(r-1)^2}{4\alpha^2} h'(\alpha)^2 - \frac{(r-1)h'(\alpha)h''(\alpha)}{\alpha} + \frac{1}{4} h''(\alpha)^2 \right] - \frac{1}{6} h'(\alpha)(h'''(\alpha) + (2r-1)(r-1)h'(\alpha))}{h'(\alpha)^2} (x_n - \alpha)^3$$

命題 3.6. $f(\alpha)=0, h(\alpha)=0$ とし, α は単根とする. $f(x)$ の q 乗の THMH 法の 3 次収束の $(x_n - \alpha)^3$ の | 係数 | $\leq r$ 乗の $h(x)$ の THMH 法の 3 次収束の $(x_n - \alpha)^3$ の | 係数 | を満たすとき, $f(x)$ の q 乗の THMH 法は $h(x)$ の r 乗の THMH 法より収束が速いか等しい.

4. 初等関数の Halley 法と THMH 法の収束比較式

例 4.1. $f(x) = (x-a)(x-b) = 0, (a \neq b)$ の根は a, b である.

$f''(x) = 2, f'''(x) = 0$ であるから, 系 3.5 の(1)の式を適用して次式を得る. ここで α は a あるいは b である.

$$0 \leq (q-1)(2\alpha - (a+b))^2 \left[\left(\frac{4}{3} - \frac{1}{\alpha^2} \right) q - \frac{2}{3} + \frac{1}{\alpha^2} + \frac{8}{\alpha(2\alpha - (a+b))} \right] \leq 8$$

例 4.2. $f(x) = (x-\alpha)^3 + \alpha(x-\alpha) = 0$ の根は α である.

$f''(\alpha) = 0, f'''(\alpha) = 6 \neq 0$ であるから, 系 3.5 の(2)の式を適用して次式を得る.

$$0 \leq (1-q) \left[\left(2\alpha - \frac{3}{2\alpha} \right) q - \alpha + \frac{3}{2\alpha} \right] \leq 12$$

定理 4.3. (1) $f(x) = \sin x = 0$ のとき, 根 $n\pi$ (n は 0 以外の整数) に収束する速さが, q 乗の THMH 法が Halley 法より速いか等しい q の範囲は, $0 \leq (q-1)(2q-1) \leq 2$ である.

(2) $f(x) = \cos x = 0$ のとき, 根 $(1/2 + n)\pi$ (n : 整数) に収束する速さが, q 乗の THMH 法が Halley 法より速いか等しい q の範囲は $0 \leq (q-1)(2q-1) \leq 2$ である.

(3) $f(x) = \tan x = 0$ のとき, 根 $n\pi$ (n は 0 以外の整数) に収束する速さが, q 乗の THMH 法が Halley 法より速いか等しい q の範囲は, $0 \leq (-1/2)(q-1)(2q-1) \leq 2$ である.

定理 4.4. (1) $f(x) = e^x - 2 = 0$ のとき, 不等式

$$0 \leq (q-1) \left[\left(1 - \frac{3}{4(\log 2)^2} \right) q - \frac{1}{2} + \frac{3}{4(\log 2)^2} + \frac{3}{\log 2} \right] \leq \frac{1}{2}$$

を満たす実数 q に対して, 根 $\log 2$ に収束する速さは, q 乗の THMH 法が Halley 法より速いか等しい.

(2) $f(x) = \log x = 0$ のとき, $0 \leq (1-q)(q-11) \leq 2$ を満たす実数 q に対して, 根 1 に収束する速さは, q 乗の THMH 法が Halley 法より速いか等しい.

参考文献

[1] 村瀬義益著・西田知己校注 : 『算法勿憚改』(1673), 研成社, 1993
 [2] 土倉・堀口・村瀬・Halley 法(拡張 Halley 法)とその収束 I (等式の場合), 平成 25 年度日本大学理工学部学術講演会予稿集, 数学部会, pp. 1267-1268., 日本大学理工学部
 [3] http://en.wikipedia.org/wiki/Halley's_method
 [4] 永坂秀子 : 『計算機と数値解析』, 朝倉書店, 1980.3